

令和 8 年 6 月 3 日 通告

(一般質問)

質問日	令和 8 年 6 月 1 5 日 (月)			質問方式	分割方式		
質問順位	6	会派名	自由民主党浜松	議席番号	4	氏名	藤田 典良
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 学校生活における主体性の育成と学校風土の醸成について	<p>近年、学校現場を取り巻く環境は大きく変化し、子どもたちの価値観や生活様式も多様化している。また、不登校児童生徒数が増加する中、学校が「行かなければならない場所」ではなく、「行きたくなる場所」となるためには、子どもたち一人ひとりが学校生活や学校づくりに主体的に関わることが重要であると考えます。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 本市における学校生活の中で、子どもたちが主体的に関わる機会の現状をどのように捉えているのか。</p> <p>(2) 学校風土や自浄作用、学校自治の視点も踏まえながら、子どもたちが主体的に関わる力を育むため、今後どのように取り組んでいく考えか。</p>						野秋教育長
2 不登校の初期段階における対応と支援体制について	<p>不登校児童生徒数増加の背景には、発達特性や心理的課題など、子ども一人ひとりに多様な要因があるものと認識している。こうした中、欠席の増加や遅刻・早退の繰り返しなど、不登校に至る前の初期段階において、いかに早期に変化を捉え、適切な支援につなげていくかが重要である。そこで、本市における不登校の初期段階の対応について、以下伺う。</p> <p>(1) 子どものこころの診療所の体制の現状認識と、民間医療機関との連携や重症度に応じた対応など、待機期間の縮減に向けた取組について</p> <p>(2) 不登校の初期段階における対応の現状と今後の取組について</p> <p>(3) 教職員を支える体制の強化について</p>						新谷健康福祉部長 野秋教育長 吉積学校教育部長
3 浜松型「学びの多様化学校」の在り方について	<p>本市においても、不登校児童生徒一人ひとりの状況やニーズに応じた学びの保障が重要な課題となっている。そのような中、学びの多様化学校には、不登校児童生徒の学びの場としての役割に加え、多様な学びを実践し、その成果を他の学校へ還元していく役割も期待されているものと考えます。また、設置にあたっては、通学のしやすさや既存施設の活用などが重要となる。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 本市における学びの多様化学校の役割と今後の方向性について</p> <p>(2) 学びの多様化学校の設置場所の検討状況について</p>						野秋教育長 吉積学校教育部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
4 校長の特例任用の在り方について	<p>教職員の定年延長制度が始まる中、本市においても、本年度より役職定年を経ることなく校長職を継続する事例が見られるところである。学校現場においては、不登校対応や特別支援教育、保護者対応、地域連携など、学校管理職に求められる役割は年々多様化・高度化しており、学校経営の方向性や管理職のリーダーシップが、教職員の働きやすさや学校風土、生徒指導にも大きな影響を与えるものと認識している。本市では、定年延長制度に伴い、特例任用として役職定年を経ずに校長職を継続する人材について、どのような考え方や視点をもって任用を行っているのか伺う。</p>	野秋教育長
5 震災を見据えた都市再構築ビジョンについて	<p>本市の持続的な発展と安全・安心なまちづくりを進めるためには、将来発生が懸念される南海トラフ地震を見据え、平時から復興後の都市の将来像を整理しておくことが重要であると考え。特に、本市のような政令指定都市においては、被災後に単に元に戻すのではなく、将来を見据えた都市の再構築という視点が求められる。</p> <p>そこで、本市において、南海トラフ地震を見据えた復興後の都市の将来像について、現状どのような考え方のもと整理を進めているのか。また、その考え方を平時の都市整備や防災・減災対策、各種施策にどのように反映していく考えであるのか伺う。</p>	中野市長
6 中心市街地西側のエリアの都市整備の在り方について	<p>本市の中心市街地西側のエリアは、浜松駅に近接し、高い利便性とポテンシャルを有する地域である。</p> <p>一方で、この地域では都市計画道路が長年未着手のまま存置されていることなどから土地利用の更新が進まず、駐車場の増加や人口減少など、市街地としての活力低下が見られる。</p> <p>そこで以下伺う。</p> <p>(1) 本市として、このエリアをどのようなまちとして将来に引き継いでいこうとしているのか、基本的な認識と方向性について</p> <p>(2) 近隣商業地域としての機能やこの地域のポテンシャルを考慮すると、現況土地利用からの転換には都市基盤の充実が必要であることから、飯田鴨江線の都市計画道路の見直しについて</p>	濱田都市整備部長
7 新美術館のコンセプトの方向性と市民等からの意見聴取について	<p>新美術館は、美術館としての機能のみならず、周辺施設との連携や駅周辺におけるにぎわいづくりなど、中心市街地活性化への効果も期待されている。</p> <p>本年度、新美術館の基本構想策定が進められる中で、新美術館をどのようなコンセプトの方向性を持つ施設として検討していくのか。また、基本構想策定にあたり、</p>	嶋野文化振興担当部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	市民や有識者からの意見をどのような形で聴取し、反映していく考えであるのか伺う。	
8 新武道館整備事業の意義と多面的機能について	<p>本市において、新たな武道館の整備に向けた検討が進められているところであるが、整備にあたっては、単なる施設整備にとどまらず、本市の将来を見据えた多面的な視点から、その意義と役割を整理することが重要であると考え。そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 体育館などの一般的なスポーツ施設との違いをどのように捉え、武道の持つ教育的・精神的価値をどのように位置付けているのか。</p> <p>(2) インクルーシブな環境構築や、地域資源の活用などの施設の在り方について、どのように検討しているか。また、建設予定地が津波浸水想定区域に位置していることを踏まえ、発災時における施設の機能について、どのように検討しているのか。</p>	杉田スポーツ振興担当部長
9 公共施設における暑熱環境対策について	<p>近年、気候変動の影響により高温多湿となる日が増加し、公共施設における暑熱環境への対応が大きな課題となっている。本市には様々な公共施設があるが、中でも市役所本庁舎は多くの職員が勤務し、日々多くの市民が来庁する施設であることから、安全かつ快適な環境を確保することが重要であると考え。市役所本庁舎における空調運用について、現在の運用基準と課題認識を伺うとともに、近年の猛暑や湿度環境の変化を踏まえた今後の空調設備の整備方針及び柔軟な運用に対する考えを伺う。</p>	鈴木財務部長
10 行政DXによるプッシュ型市民サービスの在り方について	<p>本市では健康づくり、防災、情報発信など様々な分野でデジタルサービスの活用が進められている。</p> <p>一方、人口減少や少子高齢化が進む中、限られた行政資源で市民サービスを維持・向上していくためには、市民が自ら情報を探すだけでなく、一人ひとりに必要な情報や支援を適切に届ける「プッシュ型市民サービス」の視点が重要になると考える。</p> <p>そこで以下伺う。</p> <p>(1) 本市として、行政DXを通じた「プッシュ型市民サービス」の必要性について、どのように認識しているのか。</p> <p>(2) 各種行政サービスを横断的に連携させた、浜松市独自の統合型アプリケーションやデジタル基盤の整備について、今後どのように考えているか。</p>	飯尾デジタル・スマートシティ推進担当部長